

国語（中）部会

I. 研究の概要

1. 研究主題 「主体的な思考・判断・表現を伴う学びの創造」

～批判的・創造的な読みを中心とした言語活動の展開を目指して～

2. 主題設定の理由

令和3年1月の中教審答申によると、これからの時代は「Society5.0」と呼ばれる、社会の在り方が劇的に変化する時代を迎えており、近年の情報化やグローバル化といった社会の変化が、加速度的に進展し、より複雑で予測困難な状況になっていくであろうと捉えている。このような時代だからこそ、子供たち一人一人が、予測できない変化に対して前向きに向き合う必要がある。そして、感性を豊かに働かせながら、よりよい人生社会の在り方を考え、試行錯誤しながら、問題を発見・解決し、新たな価値を創造していくとともに、持続可能な社会の創り手となっていくことができる力を身に付ける必要がある。そのためにも、学力の三要素【基礎的・基本的な知識・技能、知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力、そして、主体的に学習に取り組む態度】のバランスのとれた育成や言語活動の充実を図ることが重要である、としている。

我々、教員は、そのための一つの手段として、「生徒の主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業改善）を活性化していくことが重要である。授業においては、今後も、単元や題材のまとまりの中で、子供たちが「何ができるようになるか」を明確にしながら、「何を学ぶか」という学習内容と、「どのように学ぶか」という学びの過程を組み立てていく必要がある。このような視点を持って授業改善を図ることが、子どもたちの学びに向かう主体性や思考力・判断力・表現力を育てることにつながるはずである

3. 研究仮説

批判的・創造的な読みを中心とする言語活動の工夫を通して、確かな言葉の力（思考力・判断力・表現力）を育てることができる。

4. 研究内容

(1)教科書教材についての 実践研究	(2)教科書教材以外について の実践研究	(3)理論研究	(4)教育課程研究
<ul style="list-style-type: none">・批判的・創造的な読みを中心とする言語活動の設定・教材の指定はしない・ICTの積極的な活用	<ul style="list-style-type: none">・批判的・創造的な読みを中心とする言語活動の工夫を取り入れた授業実践・言語能力を高め、言語感覚を豊かにするための実践・優れた教材の開発・ICTの積極的な活用	<ul style="list-style-type: none">・国語教育を取り巻く現状や課題について学び、課題解決の方策の手がかりを得ることで、直面する課題に対応する教師の力を高める。	<ul style="list-style-type: none">・平成30年度に基底編、令和2年度に展開編を作成した。今後はそれらを活用し、研究主題の解明に努められるよう、必要な調査や資料収集、研究等を行う。

5. 研究方法

- | | | |
|------------------|----------------|--------------|
| (1)地域サークルでの研究推進 | (2)石教研第二次研究協議会 | (3)各種研修会 |
| (4)部会情報「一語一会」の発行 | (5)ホームページの更新 | (6)教育課程委員研修会 |

II. 実践研究の経過と成果

1. 実践研究の成果

- 4月14日(金) 石教研専門部会 第一次研究協議会(於 中央中)
- 7月20日(木) 理論研修会(於 東部中)
- 10月13日(金) 石教研専門部会 第二次研究協議会(於 恵み野中)
- 2月<予定> 各市町村 第三次研究協議会

2. 専門部会 第二次研究協議会での交流

(1) 専門部会 第二次研究協議会での交流内容



【1年生 単元名「筋道を立てて」 教材名『言葉』をもつ鳥、シジュウカラ】

- 授業者 : 安達 玄 教諭(恵庭市立恵庭中学校)
- 本時の目標 : 1 仮説2についてまとめ、本文の特徴を捉えよう。
2 わかりやすい文章とは何か考えよう。

本時の展開(5/6)

過程(分)	生徒の学習活動	形態	教師の関わり◎評価方法
導入(3)	○前時の振り返り ・仮説の確認と検証1 ○本時の目標を確認する。 ○本時の流れを確認する。 本文の特徴を捉え、自分なりにわかりやすい文章について考える。		仮説をペアで確認させる。(1人20秒) 指名し、全体で発表してもらう。 ☆本時の目標を提示 ☆ワークシートを配布
【課題】 わかりやすい文章とは？			
展開(38)			
12	○検証2について、自分の担当した項目を本文から探す。 ○班になり、それぞれが探した内容を発表し合い、ワークシートにまとめる。 ○また、各項目が事実と意見のどちらかを考える。	班	担当した項目の文を探し、教科書に線を引く。 自分が探した項目について、班で発表し、穴埋め形式で検証2の内容をまとめる。 ☆ワークシートに事実か意見かを書いてもらう。
3	○班でまとめた内容を全体で確認する。	全体	☆全体に問いかけ、表の穴を埋めていく。
3	○本文の特徴についてまとめる。 事実を基にした根拠があるため、意見に説得力が増す。	全体	事実→意見になっている。 教科書P134、135 「学習の窓」を確認させる。

15	○個人で、わかりやすい文章にするための工夫について考える。	個人	Googleスライドにまとめる。 どこをどのように変えるかを書く。 付け足す、削るも可能。 近くの人と相談しても良い。
5	教室内を動き、他の人の書き変えた文を見て回る。(意見の交流)	全体	良かったところや感じたことなどはメモしておき、振り返りフォームで書く。 ◎グループワークなど作業子を観察 ◎スライド、ワークシートの点検
終末(5)	○振り返りのフォームに取組む。 ○次回の授業の確認	個人	他の人の考えを見て感じたこと、本時の授業で学んだことを記入してもらう。

発問 この文章はみんなにとってわかりやすいか？
自分だったらどう書くか考えてみよう！

どこがわかりづらいか聞く。
(言葉が分かりにくい、良い、など)

【まとめ】根拠(事実)⇒意見の構成は説得力があり、わかりやすい。それだけでなく、わかりやすい文章には様々な工夫がある。

▼授業者より

「批判的・創造的な読み」につなげることを意識し、本文を「書き替える」という活動を取り入れた。検証1の場面で練習して内容理解はスムーズにいくようにし、「書き替える」活動に十分時間をとれるよう配慮した。

▼意見交流(抜粋)

■説明が非常に丁寧。「活動させる」ことに目が行きがちだが、生徒が活発に動けるよう、気遣いされていた。■生徒の実態に応じ、課題を設定されていた。■伸びしろ層の生徒にとっても向かうべき課題が見える展開だった。■説明文への苦手意識にどう対処するかをよく考えられた授業だった。■リラックスし、積極的な活動が見られ、ひとつの指示で生徒が活動に入っていた。ルールの定着が見られた。■ICTの活用と手書きのバランスがよかった。■振り返りの習慣化が定着されていた。

▼質問と回答(抜粋)

- 質問 : グループ活動がこなれていたが、どれぐらい取り入れているのか。
- 回答 : 単元の中で、2時間に一回は対話の場面を設けている。

【2年生A 単元名「表現を見つめる」 教材名「走れメロス」】

○授業者 : 三上 有希 教諭(恵庭市立恵北中学校)

○本時の目標：文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。

本時の展開(8/8)

▼授業者より

批判的・創造的な読みをするために、生徒自身が当たり前を見つめ直すことを目的に、物語をどう受け止めたかを、道徳で使った二重対話という方法で進める。授業者にとっても挑戦的な試みであった。

▼意見交流(抜粋)

■伸びしろ層の生徒が学級の1/3を占めているとは思えないくらい、積極的に自分の意見を話し、他の人の考えに耳を傾けていた。■自分の意見を伝えることで、どんどん授業の流れが変わっていく内容だったと思う。■互いの考えを交流し、その話から派生した考えが生まれるスタイルは、まさしく批判的・創造的な活動だったのではないかと■文章に起こすことが苦手な生徒は数名見受けられたが、話し合いにおいては高度なものだった。■学級内の学力に差があったとしても、話し終わる最後までしっかり聞いてあげたり、よいと思ったことを素直に伝える場面があり、生徒同士の関係性も見えた。

	生徒の学習活動	教師の主な働きかけ	備考 □評価
導入(5)	●前時までの振り返り	●前時までの整理 ・これまでの学習の流れの確認。 ・各班の立てた「問い」の再確認。	
展開(30)	●課題把握 課題：『走れメロス』という作品から受け取ったメッセージについて語ろう。	●課題の提示 ・正解はひとつとは限らず、多様な読みがあって良い。 ・考えの根拠が文章中にあることが重要。	
	●自分の考えをもつ(5分) ・必要に応じ、根拠となる部分を確認しておく。(個人用端末) 学びのプラン、語句や設定のまとめ、発表動画(教科書) 根拠となる部分や人物像の確認等 ●机を移動する。 ●椅子を二重円に並べて座り、内側のグループは対話を始める。(10分) ・外側のグループは発言を記録しながら対話の様子を聞き、考えを深める。 ●内外を入れ替えて、2回目の対話を始める。(10分)	●ワークシート配付 ・前時までの資料や動画を国語のクラスルームに整理しておく。 ・自分の班と異なる人物に着目した発表にも注目するよう促す。 ●金魚鉢の形を作る。 ●輪の中に入り、対話を促す。 ・深まり具合により自分の体験や知識を交える、例を挙げる、根拠を加える。 ・意見が言えなくても良いが、考えを深めるよう促す。	
終末(15)	●自分の最終的な考えをまとめ、記述する。(ワークシート)(10分) ●単元の振り返りを行う。(スプレッドシート)	●何名か発表させる。 ●初発の感想と比べ、読みが深まっている点について評価を返す。	□【思】

▼質問と回答(抜粋)

○質問：2A 辞典(スプレッドシートに記録する意味調べ)についてのポイントは？

●回答：調べる際にはChromebookのスプレッドシートに枠だけつくり、クラスルームに貼る。班ごとに分かれ、ページ・行数・言葉を入力し、ネットを使って調べる。慣れた生徒は画像を貼ったりもしていた。また、Quizletというサイトを使うと、調べた単語帳がペアを組み合わせるゲームになる。

○質問：読み取りのポイントは何か？

●回答：ジャムボードを使い、班で協力して人物や出来事でまとめる。初めは人物だけまとめることが多かったが、徐々に説明量を増やすことができるようになってきた。また、読み取る際の評価も可視化(教科書巻末近くにある物語的文章の読み方)しておくと、生徒はきちんとポイントをおさえて読めるようになってきた。

【2年生B 単元名「いこしえの心を訪ねる」 教材名「徒然草 仁和寺にある法師」】

○授業者 : 品田 研 教諭(恵庭市立恵明中学校)

○本時の目標: 筆者の考えを読み取り、登場人物にかける一言を考える。

本時の展開(3/4)

	学習活動	指導上の留意点	評価方法
導入 (10)	<p>1.学習課題を確認する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時を振り返る。 ・本時の学習課題を知る。 <p>2.兼好の考えをとらえる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原文を音読する。 ・兼好の考えを見つける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物、エピソードを確認する。 	
展開 (35)	<p>3.「かたへの人」になりきり、勘違いしている法師にツッコミをいれよう！ (班⇒全体)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「かたへの人」になりきり法師に向かって、四字熟語やことわざを用いて、班でやりとりを考える。 ・班ごとにやりとりを発表する。 <p>かたへの人</p> <p>勘違いしているのに、満足しているなんて高語道断ですよ。</p> <p>「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥。」ですからね。上に何があるのが気になったなら隣席の方に聞けばよかったですね。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・班で jamboard に法師の失敗についてツッコミのセリフを考えさせる。(複数可) ・「かたへの人」のセリフは四字熟語やことわざをつかったものとするよう注意喚起する。 ※便箋やクロームブックを使用する。 ・各班に発表させる。 ※電子黒板に掲示する。 ・他の班の発表を見て、自身の感想をドキュメントに記入させる。 <p>◎学習を通して、感じ方や考え方は時代を問わず、普遍的であることを理解させ、古典を学ぶ意義や楽しさに気付かせる。</p>	<p>研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジャムボード ・法師への助言について考え、四字熟語やことわざを使って表現している。
終末 (5)	<p>4.次時の学習の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他のグループの発表を聞く。 ・他の章段を読み、表題をつけていくことを確認する。 		

▼授業者より

国語の力は高いものの、古典文学への苦手が見られたため、その印象を払拭するために設定した。登場人物にかける一言を考えるとところから、昔の人も現代の人と同じような物の考え方、価値観があることを感覚として触れてほしかった。

▼意見交流(抜粋)

■四字熟語やことわざを生徒が意欲的に取り込んで考えていく内容が、主として狙っている能力の副次的作用をしていたのでよかった。■ICT を効果的に活用している生徒の姿が印象的。ジャムボードの使用は班活動に向いていると感じた。■課題設定が面白く、「普通」であることの価値に生徒たちは注目することができていたと思う。■班で協力して調べることで、言葉が広がっていく様子が見られた。■生徒がやることや指示が簡潔で明確だったのはよいと思う。■ジャムボードの班活動は効果的だったと思う。ただ、形としての残し方はいろいろ考えられるだろう。■課題が「つつこみ」と難しい設定だったと感じた。個人で考えたり、調べたりする時間を長くしてあげると、また違う考えが出てくるかもしれない。

▼質問と回答(抜粋)

- 質問: (普段の) 授業ではどの程度ジャムボードを使っているか? どう (紙と) 使い分けているか?
- 回答: 普段はワークシートを使用することが多いが、班での共同作業とのことでChromebook を使用してみた。
- 質問: 班活動の前に個人の時間を取らず、班での活動から始めたのはどのような狙いだったか?
- 回答: 基本的な流れになっていた個人→班の流れを、あえてしない方法を取った際の進め方を試してみたかった。
- 質問: なぜ登場人物へのツッコミを四字熟語かことわざに制限したのか?
- 回答: 生徒は漢字が苦手であるにもかかわらず、必要性がないと取り組まない気質があり、調べる学習を取り入れることで自覚させたい狙いがあった。

(2) 専門部会 第二次研究協議会での協議内容

<第1学年 分科会の様子>

【レポート交流から】

- ・理論研修会の内容から、自校でのスパイダー討論の追実践
- ・NRTが1.2の生徒を置いていかないような授業ではどのような工夫があるか
- ・教科書だけではなく、フラッシュカードやかかるた、ICT機器の内容に応じた活用
- ・ラーニングマウンテンを活用した、単元目標の見える化と生徒の個別対応 等

【実践・意見交流の話題】

◆図書教材利用

図書館司書が配備されていない学校も多い。朝読書の時間を設けている学校もあれば、授業の時間で読ませている学校もある。また、地域の方と連携した読み聞かせや地域全体で読書促進のためのPOPづくりを行う実践もある。国語科としてはどのように指導と関連させて取り扱っていくかを、今後も考えていく必要があるという話し合いをした。

◆チャットGPTについて

夏休みの読書感想文でチャットGPTを使った生徒がいた。今後、ICT機器を活用する能力と従来の国語に求められる基礎力・書く力の共存のため、上手な使い方はどのように身に付けていけばよいか。どのような授業を展開していけばよいか。そもそも教員にはどのような力が求められるのか。今後も研究を続けていくべきだと意見が出た。



<第2学年 分科会の様子>

【レポート交流から】

- ・「字のない葉書」～父に対する筆者の思いを読み取る。哲学対話を取り入れてやってみたい
- ・「魅力的な提案をしよう」及び「読書を楽しむ」～スピーチでの聞き手を引き付ける話し方の工夫
スピーチテクニックの向上や傾聴のスキルの活用
- ・「盆土産」～父に対する具体的な描写から人柄を読み取る。課題設定が重要と感じた
～作品の工夫点について考えを深める。スライド作成などICT活用の活動を重視
～自分で課題を設定し、1時間かけてレポートを作成
- ・「短歌に親しむ/短歌を味わう」～紙、もしくはドキュメントで短歌紹介のレポートを作成 等

<第3学年 分科会の様子>

【レポート交流から】

- ・「おくのほそ道」～課題を見つけさせ、調べることが一番深まりがある
- ・「俳句」～200字作文を継続→掲示。よいものを認め合う活動
～味わうことはワークと説明で。画像と句をスライド一枚にまとめ、コメント入力を行わせた。
～互いの俳句を鑑賞し、200字程度文を書くことができたが、生成AIがつくった可能性もある。
- ・「報道文」～新聞を使いながら重みづけをし、紙面を考える。 等

【実践・意見交流の話題】

◆(俳句などの) 作者と本人の読み取りが違う場合どうするべきか。

教科書等と生徒の考えのズレを補足はするが、生徒自身が読み、考えたものの価値を尊重し、見取る。また、そこから他の生徒との意見交流で、新たな考えに至ることもある。

Ⅲ. 教育課程の研究

これまでの石狩管内の先生方の実践や評価等のデータを集約し、教育課程委員会を中心に新学習指導要領に応じた編成を協議、検討した。その際に、GIGAスクール構想に伴うデジタル端末の活用が、授業および生徒が身に付くであろう資質・能力にどのような影響があるか、多角的な視点から考察することができた。また、長く教鞭をふるってこられた先生方から若手・中堅層に向けた講話も、「対話」とは何かをさらに深く理解し、今後の授業づくりにつながった。

Ⅳ. 理論研修会

1. 理論研修会

- (1) 日時 7月20日(木) 午後開催
- (2) 場所 北広島市立東部中学校
- (3) 講師 江刺家 真氏(恵庭市立柏陽中学校 教諭)
- (4) 演題 「スパイダー討論」～対話活動の提案～
内容 ①部長挨拶 ②講師紹介 ③講演 ④質疑応答

2. 理論研修会の成果(参加者の感想から)

- 自分にはない新たな手法、学びが多い研修会となりました。評価も含めると難しさはあるので、すぐにはなりません、勉強させてください。
- 評価も変わり、主体的に関わることが求められながら、どのような方法でその意識を高めていけるのかはずっと悩ましかった。ただ、今回のお話で、関わらざるを得ない状況をつくりつつ、チーム(複数人)で関わる安心感をもたせるよい活動の1つなのだと感じた。
- 新しい視点でした。評価との兼ね合いがとても難しいなと感じました。話す内容を事前にメモ等で用意せずに話す力はとても大切だと最近思っているが、やはり、まだまだ、それができない様子です。でも、何回も回数を重ねないとですね。チャレンジしてみます。
- 司会を介しての話し合いや報告ばかりで、どうすれば生徒同士の会話(キャッチボール)が生まれるのか悩んでいたのが、実践してみたいと思いました。国語以外での場面でも試してみたいと思います。
- 人数やファシリテーターの育成等の準備をすると、更により取組になるのかな…と思いました。やってみます。(自己流でやっていたがテンプレートとして活用してみます。)

Ⅴ. 部会研究の成果と課題

<成果>

今年度は研究授業から参集での実施が叶い、数年ぶりに生徒の生きた反応を見ることができたため、自校の生徒にはどのように伝えていくとよいのか、どのような進め方ができるか等をイメージすることができた。また、ICT機器の教育現場での活用が推進される中で、国語という教科がどのように関わっていけるかの課題や考えを共有することができたのは非常に有意義であった。教育は時代と共に柔軟な変化と高い質が求められる。今後も、本部会では生徒のために研鑽を続け、これまでのものと新しいことのよさが調和した授業づくりを目指していく。

<課題>

これまで活用されていた図書や紙媒体での作文、手紙と、新たに導入されたICT機器の効果的な活用が共存する教科の在り方は、現在でも多くの先生方が模索しているところであり、中には新たな取組に不安を感じている方もいる。若手教員の育成も含め、同教科での積極的な交流の機会を設け、石狩管内の教育の発展に尽力していく。

(文責 浅野 航)